メという結論だった。

天狗原から乗鞍岳の登りは更に

ここから頂上までは呼指の間だ

杉澤と川口、私はゆっくり下る。川口は眼鏡が曇って歩きにくそうだ。地吹雪に叩かれながらそれでもようやくBCに着いた。ところが驚いた。先に下ったハズの毛利達がいない。いたのは武井と塩崎だけだった。他の連中は一体どこへ行ったのだろうか。

いろいろ考えたが、やはり白馬大池方面に下ったのではないかという結論だった。なぜならば、このBCに帰るには、このすぐ上の尾根を右下に降りなくてはならない。真直ぐに行くと大池に下ってしまう。ここは早朝暗いうち出発しているので地形把握がなかったのだろう。

疲れていたが杉澤と私が捜しに行く事にする。温いコーヒーをポットに入れて出発。しかし、やはりしばらく行くと大池のはるか遠くに動いている人を発見。エールを送ると手を振ったので、毛利達と確信した。合流して話を聞くと、やはり尾根を真直ぐに下ったとのこと。しかし、無事で良かった。夜は登頂祝いの交流会だったが、全員疲れていてひどく元気がなかった。その中で、毛利と私は「隠し酒」をいつまでも飲んでいた。

1月2日（曇）

〈タイム〉起床不明～出発不明－ケーブル駅不明～山じゅう山荘不明～出発14：00～三島24：00

下山する日だが、今日も天気は良くなく、周囲にはガスが漂っていた。テントを撤収。大分雪が積もっていた。記念写真を撮り出発。乗鞍岳の登りは結構キツイ。トレースは消えラッセルが深いので一部の人はワカンをつけて行く。山じゅう山荘までイッキに下り、三島に向かう。（文中敬称略）

（85年8月20日発行機関誌「くろゆり」第12号に収録）

解説　4年で後立山の計画を終了した。パーティーは初級者がほとんどだったが、上級者のリードと本人の力で勝ち取った。会は若い男女会員が増え、第2次隆盛期を迎え、質、量とも、豊かで充実した山行を積んでいた。B隊は3名で山伏岳で実施した。

第12期冬山合宿

常念岳

2857m

後藤　隆徳

●沢渡～徳沢～横尾～常念岳

▽84年12月29日～85年1月2日

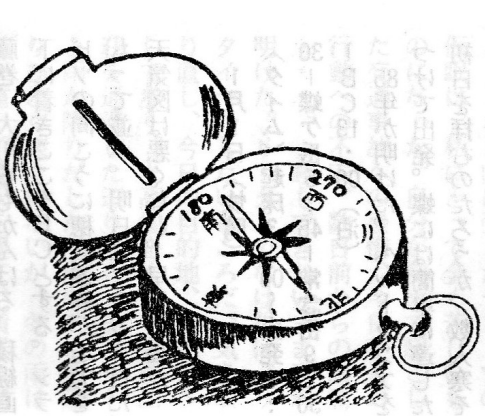
▽CL後藤隆徳（37）SL毛利哲也（51）SL杉澤康秀（35）栗原一郎（30）大川英雄（27）山田茂（39）武井伸二（26）藤巻郁雄（31）川口諒子（48）青木昭恵（23）増田仁美（26、富士希更山の会）中田　明（23、徳沢で下山）

『とりくみ』

後立山での冬山計画は昨年で一応終了し、本年より穂高山域に入った。計画年数は具体的でないが、今後前穂高岳北尾根、横尾尾根、涸沢岳尾根、槍ヶ岳中崎尾根、同北鎌尾根などを予定している。従って、5月の時点では北尾根を予定し、春山合宿でも偵察を行ったが、技術的に難しく、時期尚早との結論に達し、見送られた。

代案として、会員のほとんどがまだ冬の上高地すら未経験という事実をふまえて、今回は、穂高山域全体の状況を把握する意味を考え常念岳の計画に取組んだ。

12月29日（晴のち雪）

〈タイム〉三島17：20～沢渡24：00（泊）

事務所に集合。いつもと同じあわただしさで出発。車は川口のワゴンと藤巻のセミトラを使用。中央道伊北インターにおりると雪も多くなりチェーンを巻く。ワゴンのチェーンが具合悪く苦労し、時間をロスした。沢渡に着き、予約した「高桑荘」に入り一息つく。雪は30センチ位。民宿は新しく立派で、暖房も良く利いて暖かだった。皆で少し飲み明日からの健闘を誓いあった。